

教え合いながらプログラミングを学ぶ児童

II 垂水市の協和小学校

タブレット使い 「プロ検」に挑戦

垂水・協和小

垂水市の協和小学校が、プログラミング能力検定協会（東京）の検定を活用する授業を始めた。児童らのプログラミングスキルを数値化し、達成感を高めるねらい。

1月26日は同協会の講師

が、5、6年生13人にリモートで出前授業をした。児童はタブレットを使い、キャラクターの動き方を考えながら、指示を与えるブルックを組み合わせた。最後

はキャラクター同士が鬼ごっこをするようなプログラムを試行錯誤して仕上げ

た。



児童は今後、能力検定に挑戦していく予定。奈良博士教頭は「タブレット端末を有効活用でき、論理的思考力の向上も期待できる」。6年井之上さんは、

「友人と教え合いながら工夫する楽しさがある」と話した。（寺師周平）